

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	指定放課後等デイサービスいぶき保原中央		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を元にいぶきの療育方針を基に療育を立案し、しっかりとした療育プログラムを実施している事。	5領域およびいぶきの療育について共通理解を図り、日々の療育計画の立案、個別支援計画書の話し合い及び起案を行い療育に努めている。	しっかりとした療育方針を築くと共に、さらなる学び、子ども、保護者の思いを受け入れながら、子どもの最善に利益を考慮し支援していく。
2	施設には庭があり、天候の良い日は、庭に出て、鬼ごっこや、ルールのある運動遊び、長縄跳び等、運動面で戸外でのびのび体を動かす事が出来る。	天候の良い日には、庭を用い、「運動・感覚」「人間関係・社会性」の領域を元に、小集団での運動遊びを行い、戸外でのびのび体を動かしながら、心身の体力、人とのかわり、更にルールや決まりを守るなどの経験をし伸びていく様に支援している。	今後も小集団でのルールのある運動や活動を、いろいろ考え起案し、楽しみながら心身の体力、人とのかわり、更にルールや決まりを守るが事で伸びていける様に支援していく。
3	放課後等デイサービス計画の作成や、日々の療育計画を立案する上で、ケース記録、療育日誌を欠かさず記入する、スクリーニング検査等のフォーマルなアセスメント及び保護者からの情報(医療的なデータも含む)のインフォーマルなアセスメント、組み合わせ立案している事	療育の中で起きた事や気にかかる事など、記録やデータなどから読み取り、起きた現象ではなく、要因や原因、その時の環境、職員のかかわり方、今後の今後の方向性などを分析し、予想を立て、立案及び実践している。	職員一人一人の見方、捉え方考え方を打ち合わせの中で取り上げ、子ども達一人ひとりが浮き彫りされる様に話し合い、職員皆の見方や考え方を参考にしながら立案していく事で更に広がる様に努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・新型コロナウイルス感染症が広がった後に、出来た施設で、保護者を対象として交わりのイベント行うことはなかった。前年度から外部講師を呼び研修会を行い、終了後交わる時間を設けてきたが、保護者としては物足りなかったように思われる。	・新型コロナウイルスが5類に移行となり検討保護者向け研修会を企画してきたが、保護者としては、雲長舎の放課後等デイサービスで以前行っていた様なプログラムを、求めているように思われる。	・次年度は、保護者が参加できるイベントを研修会だけではなく、交流を中心としたプログラムを検討し企画し実施していきたい。
2	・放課後児童クラブ児童館との交流や地域の他の子どもと活動する機会は、いろいろ検討は進むが、感染症対策などの面から進展が見られず、子ども食堂への参加程度で終わっていた。	・子ども食堂へ参加して地域とのかわりももってきたが、放課後児童クラブとの情報共有は行ってきたが、交流となると、行政や放課後児童クラブとの交渉までには至らなかった。	・放課後等デイサービス自己評価表に上げられていることを考慮し、放課後児童クラブと情報の共有は図っているので、更に一歩踏み込み、交流が出来る様に工夫していきたい。
3	・職員の研修について、外部講師を呼んでの研修や障がいの理解、療育について、学ぶ機会を設け、事業所で作成した小冊子を用いた研修、を行ってきた。職務及び経験年数、個人の意欲などにより差が見られ、組織全体としての知識のスキルアップすることが必要である。	・同じ教材をもちい、今まで障害について療育について学んできたが、職員それぞれに差が見られ、どのような方法で研修を進めればいいのか検討し試行錯誤しながら進めてきた。	・職員の経験年数理解を基に、それに応じた学びや課題を用意し、理解力を上げ、さらに協議する時を設けスキルアップをしていく。